

## 高校生の登山のあり方に関する意見

那須雪崩事故遺族・被害者の会  
佐藤政充

### 1. 私にとっての那須雪崩事故

皆さんは、今まで「かけがえのない」という言葉を使ったことがありますか。不信感でいっぱいになったことがありますか。そして、将来の不安を真剣に悩んだことがありますか。

平成29年3月27日、その日は私の家族にとって人生最悪の日となり、“かけがえのない”ものを突然実感させられました。

想像もしなかった息子の突然の死に直面し、あの日から生活が一変しました。高校の部活動中、安全なはずの講習会、そこで8名が死亡、40名が負傷するという山岳事故が起きました。

明るい未来があったはずの“かけがえのない”、たった一人の、大切な息子を一瞬で失ってしまい、現実を直視できず目の前が真っ暗になりました。いつものように「行ってきます」と元気良く出かけ、「ただいま」と元気良く家に帰ってくると信じて疑いませんでした。しかし、突然現実を突きつけられました。病院で冷たくなった息子と対面し、必死の呼びかけにも反応しない我が子、死亡を宣告された時の衝撃は計り知れないものでした。その光景は生涯脳裏から離れる事はないと思います。安全なはずの講習会での出来事、顧問は何をしていたのだという怒りと、親としてなにも出来なかったことがとても悔しく、今でも目頭が熱くなります。息子を失った喪失感、悲しみ、苦しみ、怒りが今でも繰り返されます。息子の面影を探す毎日、息子への思いは更に色濃くなってきたように感じています。

那須雪崩事故は、本来回避できた事故であって人災だと思っています。大きな夢を持った息子の人生を一瞬で奪っただけでなく、私たち家族の人生も大きく狂わせたのです。他に愛情を注げる子供もなく、私たち家族の将来が非常に心配、そして不安でいっぱいです。

こんな思いをする親は、もう出てほしくありません。

### 2. 高校山岳部の活動について

運動部における部活動は、体育館や校庭など比較的安全が確保された場所での活動となっています。試合などでは保護者や観戦者など多くの目があります。顧問はそんな中で指導監督しているのが普通です。いざという時も比較的迅速な対応が出来ます。

しかし、山岳部の部活動においては山域での活動であり、保護者の同行は通常ありません。講習会であっても普通の登山と変わりなく、他の運動部とは大きく違っていています。道迷い、転倒、滑落、集中豪雨、落雷、火山噴火など起こりうるたくさんのリスクや、読図、気象知識、雪崩の知識など、相当なスキルと知識がなければ部員を危険に晒します。異常気象が普通となりうる昨今、登山中に引率者（顧問）が一つでも判断を間違えれば大事故となり大掛かりな救助を要し、最悪は那須雪崩事故のように参加者が命を落とすことになりかねません。逆に言えば結果オーライなら黙っていればわかりません。野球やサッカーの試合で、監督の采配ミスで負けるのとは大きく違います。山岳部は、そんな特異性を持った部活動だと思います。

### 3. 高校山岳部についての疑問

#### (1) 組織について

- ・高校に山岳部は必要か、クラブチームではだめなのか
- ・高体連主催の大会で順位をつける方式が必要か

#### (2) 顧問について

- ・顧問はどのくらいのスキルを持っているのか
- ・顧問のみの引率で、いざという時に本当に適正な判断を迅速にできるのか
- ・かけがえのない大切な子供を預かっているという実感があるのか
- ・山岳部の顧問を望んでやっているのか
- ・那須雪崩事故以降、山岳部の活動への考え方はどう変わったのか

#### (3) 部員について

- ・どんな目的を持って入部したのか。登山がしたい？競技がしたい？
- ・登山の危険性をどの程度把握しているのか

### 4. 検討事項

- (1) 山岳部は高校の部活動で必要か
- (2) 高体連の登山大会でタイムレースが必要か
- (3) 山岳部の顧問は教諭でなければならないのか
- (4) 部活動とは別のクラブ所属での活動ではだめなのか